

市政記者クラブ 様

令和6年6月13日（木）
健康福祉局健康部感染症対策課
（結核以外）黒坂、近藤 電話：972-2631
（結核）竹田、増田 電話：972-2633

名古屋市感染症発生動向調査（令和6年5月分患者発生状況）について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 5月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年5月	令和5年5月
◆一類感染症 （発生なし）	0 件	0 件
◆二類感染症 ・結核	2 1 件	3 5 件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	1 件	2 件
◆四類感染症 ・E型肝炎 ・デング熱 ・日本紅斑熱 ・レジオネラ症	3 件 2 件 1 件 2 件	0 件 1 件 0 件 3 件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く） ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・水痘（入院例に限る） ・梅毒 ・百日咳	4 件 1 件 3 件 7 件 2 件 5 件 1 件 3 1 件 1 件	1 件 0 件 5 件 0 件 8 件 6 件 0 件 5 4 件 0 件
◆五類感染症（定点把握疾病：第18週～第22週（4月29日～6月2日分）） ・報告数の多い疾病は、①新型コロナウイルス感染症（985件：前月比0.87倍）②A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（736件：前月比1.32倍）③感染性胃腸炎（621件：前月比1.10倍）の順となっています。		

2 トピックス

《手足口病 ～今後更なる流行に注意しましょう～》

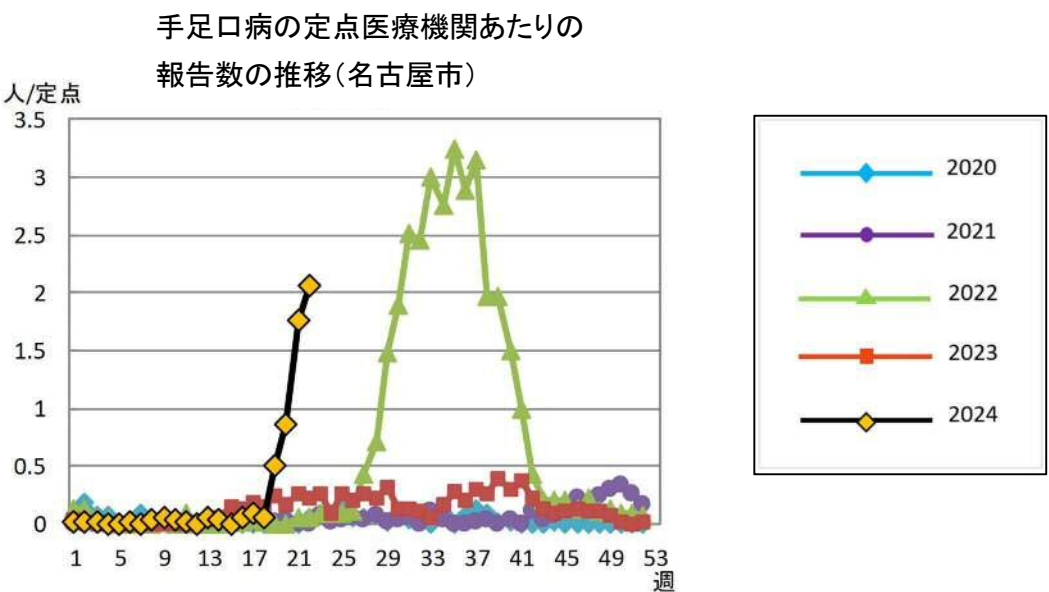
手足口病は、コクサッキーウイルス A6 型、A16 型、エンテロウイルス 71 型などにより引き起こされる急性ウイルス性の感染症です。潜伏期間は通常 3～5 日で、乳幼児を中心に発症することから、集団生活している施設では特に注意が必要です。

5 月期（2024 年第 18 週～第 22 週）の患者報告数は 369 件（前月比 26.36 倍）で、前月と比較して 355 件増加しました。例年、夏に流行のピークがみられることが多く、今後の動向に注意する必要があります。

症状は、手のひらや足先、口の中に水疱性の発疹が現れ、軽度の発熱を起こすことがありますが、基本的には数日間で自然治癒します。まれに、髄膜炎、脳炎などの合併症を引き起こす場合がありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

感染経路は、咳・くしゃみ、便、水疱の内容物から感染します。また、症状が回復した後も数週間は便からウイルスが排出されることがあります。

感染の予防として有効なワクチンはありません。流水と石けんによる手洗いを心がけ、タオルの共用は避けましょう。また、感染した乳幼児のおむつ交換時には、排泄物を適切に処理し、処理後も手洗いをしっかりと行うなど、感染予防に努めましょう。



【定点医療機関あたりの報告数の推移】

週	名古屋市		愛知県 (名古屋市含む)	全国
	報告数	定点あたり	定点あたり	定点あたり
第 18 週 (4/29～5/5)	4 (11)	0.06 (0.16)	0.13	0.61
第 19 週 (5/6～5/12)	35 (17)	0.50 (0.24)	0.42	0.90
第 20 週 (5/13～5/19)	61 (12)	0.87 (0.17)	0.84	1.49
第 21 週 (5/20～5/26)	124 (18)	1.77 (0.26)	1.82	2.13
第 22 週 (5/27～6/2)	145 (16)	2.07 (0.23)	2.48	2.89

() は昨年同週の報告数

3 病原体分離情報（令和6年5月検査分）

1. 令和6年4月7日発症、令和6年4月12日に市内医療機関を受診し、診断名不明（肝機能障害あり）、守山区在住、4歳、女兒の検体（咽頭拭い液）から、初感染、再感染、潜伏感染、再活性化などにより乳幼児に様々な病態を示すことが知られているサイトメガロウイルス（CMV）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和6年4月11日発症、令和6年4月15日に市内医療機関を受診し、喘息性気管支炎と診断された、千種区在住、0歳10か月、男児の検体（咽頭拭い液）から、初感染、再感染、潜伏感染、再活性化などにより乳幼児に様々な病態を示すことが知られているサイトメガロウイルス（CMV）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和6年4月12日発症、令和6年4月19日に市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、名東区在住、24歳、男性の検体（結膜拭い液）から、流行性角結膜炎を起こすことが知られているアデノウイルス 37 型（AdV37）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和6年4月22日発症、令和6年4月25日に市内医療機関を受診し、RSウイルス感染症と診断された、名東区在住、1歳、男児の検体（咽頭拭い液）から、生後2歳までにほぼ全員が感染し、発熱、鼻汁などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々な病態を引き起こすRSウイルス A 型（RSV-A）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、同一検体から、発熱、倦怠感、リンパ節腫脹、肝腫大や血中肝酵素の上昇、脾腫、皮疹などを主徴とするEB（エプスタインバー）ウイルス（EBV）も遺伝子検査法により検出・同定しました。
5. 発症日未記載、令和6年4月26日に市内医療機関において急性脳炎と診断され、同日に検体を採取された、居住区未記載、59歳、男性の検体（咽頭拭い液、便）各々から、乳幼児に重篤な肺炎や細気管支炎などを引き起こすことが知られているRSウイルス B 型（RSV-B）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
6. 令和6年5月7日発症、令和6年5月7日に市内医療機関を受診し、RSウイルス感染症と診断された、千種区在住、0歳11か月、性別不明の検体（咽頭拭い液）から、乳幼児に重篤な肺炎や細気管支炎などを引き起こすことが知られているRSウイルス B 型（RSV-B）を遺伝子検査法により検出・同定しました。また、同一検体から初感染、再感染、潜伏感染、再活性化などにより乳幼児に様々な病態を示すことが知られているサイトメガロウイルス（CMV）を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和6年 第18週～第22週（4月29日～6月2日）

	小児科・インフルエンザ/COVID-19定点報告 (70医療機関)												眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)								合 計
	インフル ンザ等感 染症を 除く	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を 原因として同定された場合を除く)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに 限る)	インフル エンザに よる入 院患者	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 ※に よる入 院患者		
千種	2	59	32	7	31	69	3	44	0	4	5	0	0	4								260	
東	2	61	7	2	57	5	1	20	0	5	3	0										163	
北	7	60	20	7	48	85	3	17	0	3	3	1	0	0	0	0	2	0	0	0	13	269	
西	8	36	74	20	123	53	0	141	0	8	21	2	0	1								487	
中村	2	78	41	1	16	44	0	3	0	0	0	0	0	1								186	
中	5	73	29	5	44	19	2	23	0	3	1	1										205	
昭和	7	103	1	0	6	21	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	21	165	
瑞穂	4	43	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0								49	
熱田	1	52	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1								57	
中川	7	89	31	26	60	46	1	33	0	4	15	2			2	0	10	0	0	0	10	336	
港	2	53	3	1	19	46	1	4	0	3	1	0										133	
南	10	81	32	9	46	19	0	0	0	0	0	0	0	0								197	
守山	6	59	21	8	54	69	3	39	0	3	1	1										264	
緑	13	76	6	3	59	75	3	11	0	4	2	4	0	1								257	
名東	1	20	18	26	159	47	1	23	0	6	2	0	0	0								303	
天白	1	42	1	0	12	23	0	9	0	0	1	0	0	4								93	
合計	78	985	317	116	736	621	18	369	0	44	55	11	0	12	2	0	16	0	0	0	44	3,424	
前月	396	1,136	288	77	559	563	11	14	1	27	2	8	1	9	2	1	10	0	0	5	42	3,152	
前月比	0.20	0.87	1.10	1.51	1.32	1.10	1.64	26.36	0.00	1.63	27.50	1.38	0.00	1.33	1.00	0.00	1.60	-	-	0.00	1.05	1.09	
昨年同月	360	-	212	102	200	1,250	10	58	3	32	53	8	0	4	0	0	0	0	0	0	-	2,292	

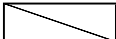
※病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

注1 新型コロナウイルス感染症は、小児科・インフルエンザ/COVID-19定点報告は第19週分（令和5年5月8日～）から、基幹定点報告は第39週分（令和5年9月25日～）から集計。

注2  は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和6年 5月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	感 性 器 症 ク ラ ミ ジ ア	ウ 性 イ 器 ル ヘ ス ル ペ ス 症	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	感 黄 メ 染 色 チ 症 ブ シ ド リ ン 球 耐 菌 性	肺 炎 球 菌 感 染 症	緑 膿 菌 感 染 症	
千種	12	0	0	5				17
東								
北	18	6	8	8	1	0	0	41
西	1	1	0	1				3
中村	4	1	0	1				6
中	55	60	32	16				163
昭和	11	2	6	1	2	0	0	22
瑞穂	0	4	0	0				4
熱田								
中川	10	5	6	3	5	1	0	30
港	5	1	0	1				7
南	2	0	0	0				2
守山								
緑	9	0	1	4				14
名東	1	0	0	0				1
天白	2	3	1	2				8
合計	130	83	54	42	8	1	0	318
前月	116	58	40	55	6	1	0	276
前月比	1.12	1.43	1.35	0.76	1.33	1.00	-	1.15
昨年同月	113	34	22	48	2	0	0	219

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

5月分患者報告数	
週報分	3,424
月報分	318
合 計	3,742

令和6年 5 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和6年 5 月 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数	令和4年計 患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	1	7 (1)	62 (13)	30 (2)
	腸チフス	-	-	-	-
	パラチフス	-	-	2 (1)	-
	合 計	1 (0)	7 (1)	64 (14)	30 (2)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和6年 5 月 患 者 数	令和6年計 患 者 数	令和5年計 患 者 数	令和4年計 患 者 数
O157	-	4	48 (6)	20 (2)
O26	-	-	4	5
O103	1	1	-	-
O121	-	-	-	4
その他	-	1 (1)	1 (1)	-
型 不 明	-	1	9 (6)	1
合 計	1 (0)	7 (1)	62 (13)	30 (2)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

5月

保健セン ター名	令和6年5月（※）			令和6年計（※）			令和5年計（※）			令和4年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	0	0	0	6	1	0	21	8	5	18	3	11
東	1	0	0	4	2	1	4	1	6	13	5	4
北	1	1	0	10	7	2	18	8	14	26	15	5
西	2	0	0	7	1	2	13	6	11	15	6	8
中村	1	0	1	7	1	1	21	4	10	26	13	8
中	1	0	1	8	3	3	21	9	12	9	3	8
昭和	2	1	1	9	4	1	13	2	6	9	2	5
瑞穂	0	0	0	3	0	1	8	2	3	14	7	2
熱田	2	0	1	5	1	2	4	1	4	9	1	5
中川	0	0	0	5	3	6	31	8	20	24	9	12
港	0	0	1	5	1	3	23	5	10	26	5	11
南	0	0	1	7	3	3	18	7	12	24	9	9
守山	1	0	0	11	6	2	21	12	11	18	10	6
緑	2	0	0	9	1	3	21	5	18	21	8	9
名東	1	1	0	4	1	1	10	4	7	16	6	10
天白	1	0	0	4	2	0	18	7	6	15	2	7
全市	15	3	6	104	37	31	265	89	155	283	104	120

※令和5年・令和6年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年5月		令和6年計	令和5年計	令和4年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	3		4	5	1
A型肝炎	－		－	1	1
エムボックス	－		－	3	－
重症熱性血小板減少症候群※	－		－	－	1
つつが虫病	－		－	1	3
デング熱	2		2	6	2
日本紅斑熱	1		1	1	－
マラリア	－		－	1	3
類鼻疽	－		－	－	1
レジオネラ症	2		17	32	47
レプトスピラ症	－		－	1	－
合 計	8		24	51	59

※ 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和6年5月		令和6年計	令和5年計	令和4年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	4		9	13	12
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	1	－ － その他： 1	－ － その他： 1	B型： 2 － その他： 3	－ － －
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3		24	53	62
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－		－	－	1
急性脳炎※	－		4	17	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	－		－	3	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7		32	22	28
後天性免疫不全症候群	2	－ AIDS： 2 －	無症候性キャリア： 9 AIDS： 5 －	無症候性キャリア： 55 AIDS： 20 －	無症候性キャリア： 39 AIDS： 16 その他： 2
ジアルジア症	－		1	－	－
侵襲性インフルエンザ菌感染症	－		6	14	8
侵襲性髄膜炎菌感染症	－		－	1	1
侵襲性肺炎球菌感染症	5		42	54	36
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	1		5	8	3
梅毒	31	早期顕症梅毒： 24 晩期顕症梅毒： 1 － 無症候梅毒： 6	早期顕症梅毒： 111 晩期顕症梅毒： 4 － 無症候梅毒： 55	早期顕症梅毒： 333 晩期顕症梅毒： 4 先天梅毒： 5 無症候梅毒： 126	早期顕症梅毒： 296 晩期顕症梅毒： 5 － 無症候梅毒： 108
播種性クリプトコックス症	－		1	1	3
破傷風	－		－	1	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－		1	－	－
百日咳	1		4	16	2
麻しん	－		2	－	－
合 計	55		316	751	629

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

参考資料

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：25 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 6 年 5 月 31 日時点）